



な ら み お 奈良 美緒 さん



地域おこし協力隊／

コワーキングコミュニティ「teraco.」マネージャー
(都留市)

今回は、現在都留市にお住まいで地域おこし協力隊として活動している
奈良美緒さんにお話をうかがいました。

都留市出身だそうですが、Uターンのきっかけについて教えていただけますか。

奈良 大学を卒業してから5年間都内の人材教育コンサルティング企業に勤めていました。仕事自体はとても楽しく充実した日々を送っていましたが、とにかく忙しい。5年後、10年後も同じ仕事を続けているイメージが持てませんでした。

新卒採用担当として学生と面談するとき、彼らに向けて発する言葉がそのまま自分に跳ね返って来て、自問自答する中で、自然と出て来た答えが「地元に戻って、本当に好きなことをやろう」という思いでした。当時は教育学部出身ということもあり、吉田松陰の松下村塾のような学校を作りたいという夢もあったのですが、この会社でその夢を叶えるのは何十年も先になりそうだなと感じていましたし、やるなら地元でと考えていました。と同時に「とにかく一度立ち止まって休みたい、ゆっくり今後のことを考えたい、という気持ちがあったことも事実です。結果、退職し実家のある都留市にひとまずUターンすることにしました。

地域おこし協力隊について教えて下さい。

奈良 地域おこし協力隊事業は、総務省が所管する国の政策のひとつです。都会で暮らしている人が田舎に移住し、3年間の移住期間の中でその地域への定住・定着を促進する取り組みです。

わたしは2017年に結婚し東京都に一度戻ったのですが、その後再び都留市に戻る形で協力隊員として委嘱され、各種の地域協力活動に取り組んでいます。

地域おこし協力隊の働き方は大きく分けて2種類で、ミッション型とフリーミッション型があります。ミッション型の例としては、1次産業の後継者候補として従事したり、移住促進のためにイベントを企画開催するなどがあり、



奈良美緒さん

あらかじめやる事が決まっています。もうひとつのフリーミッション型が、私のいま属している形なのですが、自ら課題設定をし活動計画を立てて、実際に活動を行なっています。

地域おこし協力隊としては、私を含め8名の隊員が県外から都留市に移り住み活動を行なっていて、その活動内容はさまざまです。

奈良さんは、これまで、どのような活動をしてきたのですか。

奈良 地域おこし協力隊に着任後1年目は、築80年の古民家を改装したゲストハウスの経営を始めました。併せて、都留の観光まちづくりを推進する、というテーマのもと、市内でゲストハウスや民泊の開業を志す方の相談業務や運営のお手伝いにも関わっていました。

また、観光まちづくりのためのワークショップの企画運営にも携わったり、さまざまな活動にチャレンジしてきました。現在は主に「田舎フリーランス養成講座」という1ヶ月滞在型のWEBスクールの企画運営を、県外のITベンチャーとタッグを組んで行なっています。

現在、地域おこし協力隊として、コワーキングコミュニティ「teraco. (テラコ)」の運営という新たな活動をはじめたと聞いておりますが、その経緯について教えてください。

奈良 地域おこし協力隊として活動し始めた最初の1年は、自分自身のビジネススキルを磨くことの必要性も痛切に感じていて、その際、たまたま知人が開催しているのに出会ったのが「田舎フリーランス養成講座」でした。当時は千葉県でのみ開催しておりすぐさま申し込みをしたのですが、友人でもある主催者とWEB面談をした際に「山梨でも同じ講座をやってみませんか？」と誘いを受け、結局2018年の2月に「田舎フリーランス養成講座 in 都留」を自分で主催しました。

この講座は、ブログを立ち上げて自分の活動を発信したり、アフィリエイトによって広告収入を得てみたり、チラシ・名刺などのデザイン、ホームページデザインや作成、ライティングなどを実際にやってみながら学んだり、自分のやりたい事に合わせて選択して学ぶことができます。

初回は12名の方が参加され、都留で一ヶ月学んでフリーランスとして巣立って行った人、スキルを磨き直し会社に戻っていった人、休学して修行の旅に出る学生さんなど、さまざまな人との出会いがありました。一ヶ月滞在することで参加者が都留を気に入ってくれ「第二の故郷」と呼んでくれたり、最初の回に参加してくれた方が今でも遊びに来てくれたり、中にはそのまま都留市に移住をした方もいます。2019年10月には8回目を数えるようになりました。参加者人数は平均すると12名。20～40代の男女が日本全国(たまに海外)から訪れてきて、自分の今後のキャリアに真剣に向き合い実践を通して学んでいます。

その姿が、かつて葛藤していた頃の自分と重なるんですよね。実際にその道を通ってきたからこそ、彼らの気持ちに寄り添うことができるのかもしれないです。田舎フリーランス養成講座をやっていないときは、会場である「teraco.」をコワーキングスペースとして運営しています。

「teraco.」でのコワーキングスペースの運営について、教えてください。

奈良 月額会員制で、会員の方は24時間、wi-fiつき作業スペースとして利用することができます。その他にイベントスペースとして貸し出しをしており、地域の方が映画の上映会を主催してくれたり、珍しい料理を振舞ってくれたり、様々な催しが行われていますね。会員の方と地元の方や都留の大学生が同じ場所で出会い、またその中で化学反応が起こり一緒に何かをはじめてみる、ということが日常的に起こる場所になっています。良くも悪くも何が起

るかわからないところが、非常に面白いですね。

現在、スタッフは私を含めて4名、「teraco.」の会員として15名が登録しています。現在開催中の田舎フリーランス養成講座の参加者も含めて10名が移住を予定しています。学校でも職場でもない”第3の居場所”として、この場所を大切に思ってくれる人たちがどんどん増えてきていて本当に嬉しい限りです。



これから何かを始めようとしている方にアドバイスなどあれば教えていただけますか。

奈良 思っているだけではなく、まずは言葉にして発信してみることで、でしょうか。ですが注意しないといけないのは、発信する先を見極めなければならない。その発信が応援してくれる方に届けば良いのですが、届ける先があまりにも身近な人すぎると、心配のあまり「本当にできるの?」とか「やめておいたほうがいいんじゃない?」なんていう言葉をかけてこられたりもして、思いとどまってしまうこともあったりするんじゃないかなと思います。そんなときに、この「teraco.」を活用してほしいですね。

ここにいる人たちはみんな、基本お互いのことを尊敬し応援し合う文化の中に生きていますので、「～だからできない」ではなく「どうしたらできるか」という視点から色々アドバイスをくれたり刺激をくれたりします。私自身、10代の頃に「もっと応援してくれる人や、一緒に励まし合いながら高め合える仲間が欲しい」と思っていたこともあったりしたので、そんな場を自ら作り出そうと思って日々チャレンジしています。やらないうちにあきらめるのは、本当にもったいないと思います。やってみてから考えるのもいいじゃないですか。私自身、実際そのようにやってきて今があると思っていますので、一歩踏み出そうとしている人の背中には全力で押しにいきます!